

会 議 要 旨

(1 / 5)

会議の名称	令和5年度第3回川越市自殺対策連絡会議
開催日時	令和6年1月30日(火) 14時00分 開会 ・ 15時00分 閉会
開催場所	川越市保健所 大会議室
議長	埼玉医科大学総合医療センター メンタルクリニック教授 吉益晴夫
出席者氏名 (人数)	別紙のとおり (14名)
欠席者氏名 (人数)	別紙のとおり (2名)
事務局職員 職氏名	川越市保健所副所長 若林昭彦、 保健予防課長 福田英一、 副課長 佐藤順子、 副主幹 岩間亜希、 主査 石黒剛、 主査 伊藤陽平、 事務 池谷真弓
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 開会</li> <li>2. 議題 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 意見公募手続きの概要と結果について</li> <li>(2) 第二次川越市自殺対策計画(最終案)について</li> <li>(3) 今後のスケジュールについて</li> </ol> </li> <li>3. その他 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 令和5年の自殺統計(暫定値)について</li> <li>(2) 鉄道街頭キャンペーン(自殺対策強化月間)について</li> <li>(3) 各委員からの報告及び意見交換</li> </ol> </li> <li>4. 閉会</li> </ol>
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 次第</li> <li>・ 委員名簿</li> <li>・ 資料1 意見公募手続きの概要と結果について</li> <li>・ 資料2 第二次川越市自殺対策計画(最終案)</li> <li>・ 資料3 次期川越市自殺対策計画策定スケジュール</li> <li>・ 資料4 令和5年の自殺統計(暫定値)について</li> <li>・ 資料5 「命の大切さを伝える」鉄道街頭キャンペーン 開催要項</li> <li>・ 前回第2回の会議要旨</li> <li>・ 川越地区消防局自損行為に関わる統計データ(川越市内事案)</li> <li>・ 埼玉いのちの電話 広報資料</li> </ul>

議 事 の 経 過	
事務局	<p>1. 開会</p>
議長	<p>傍聴者 1 名あり。 会議の傍聴について認めることとしてよろしいか。</p> <p>【委員の意見】 異議なし</p>
	<p>2. 議題</p> <p>(1) 意見公募手続きの概要と結果について 事務局より、資料 1 に基づいて説明。</p>
委員	<p>【委員の意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 30 番の意見について、いじめ相談の件数が少ないとあるが、いじめは自殺に直結する事柄で、しかも小学生、中学生、高校生と若いので非常に重大な事案が起こる可能性がある。市の回答に関係課と共有した上で今後の参考とするとの記載があるが、関係課名を具体的に掲載した方がわかりやすいと思う。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ご指摘の部分は、資料 2 の 52 ページに掲載されている 85 番のいじめ相談直通電話、86 番のいじめ相談電子窓口、88 番のネットパトロールの事業が該当する。ここに掲載されている教育センター、教育指導課が関係部署として情報共有するという対応で考えている。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ この 52 ページに関連して、子どものいじめなど自殺対策においてとても大切なのは、「相談窓口があるから相談に行きなさい」ではなく、「SOS の出し方教育」を積極的に行っていくことが大切だと思うが、それほどの部署が担当であるのか。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育指導課である。昨年度、埼玉県教育委員会から委嘱を受けて、メンタルヘルスリテラシー教育を川越市立名細中学校で先行事例として実施し、今年度からは全小中学校で周知していくことで子どもたちが SOS を出せるようにする教育を推進しているところである。</li> </ul>
	<p>(2) 第二次川越市自殺対策計画（最終案）について</p>

議 事 の 経 過	
事務局	<p>事務局より、資料2に基づいて説明。</p> <p>計画の資料編に委員の氏名を掲載したいと考えている。氏名、所属等に誤りがある場合は、今月中に事務局まで連絡いただきたい。</p>
委員	<p>【委員の意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・78 ページの 96 番の「出産・子育て応援事業」の中に「伴走型の相談支援」とある。伴走型というのはとてもよいことだと思うが具体的にどのような取り組みが行われているのか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まず妊娠届を出された妊婦に、届出時に面談とアンケートを実施している。面談、アンケートを実施した方に経済的支援として、5万円を給付している。</li> <li>・妊娠8か月の妊婦に対し、アンケートを実施し希望のあった方に面談を実施している。</li> <li>・伴走型支援として、出産後、新生児訪問またはこんにちは赤ちゃん訪問で保健師または助産師等がその方々の自宅に訪問し、経済的支援として5万円を給付するという形で妊娠期から出産後まで、寄り添いながら支援を行っている。(妊娠時と出産時で合計10万円給付)</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意見公募の3番のように「文字が小さすぎて読めない。もう少し大きくしてほしい。」という意見が合計で3件あった。</li> <li>・大部分は読みやすいが、表については文字が小さいため、少しでも大きくしてもらえると、学習障害や視力障害等何らかの障害があって読みにくい方にとってバリアフリー化ができると思う。</li> </ul>
事務局	<p>(3) 今後のスケジュールについて</p> <p>事務局より、資料3に基づいて説明。</p> <p>【委員の意見】</p> <p>なし</p>
事務局	<p>3. その他</p> <p>(1) 令和5年の自殺統計(暫定値)について</p> <p>事務局より、資料4に基づいて説明。</p>

議 事 の 経 過	
事務局	<p>【委員の意見】 なし</p> <p>(2) 鉄道街頭キャンペーン（自殺対策強化月間）について事務局より、資料5に基づいて説明。</p>
委員	<p>【委員の意見】 なし</p> <p>(3) 各委員からの報告及び意見交換</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・救急搬送件数は令和4年が過去最高の2万件を超えて2万522件だったが、令和5年についてはさらに増えて2万1,913件で、令和4年から令和5年で1,391件の増加となっている。</li> <li>・最近の傾向として、新型コロナウイルス感染症の搬送が秋口から減っていたが、最近になりまた増えてきている状況。</li> <li>・救急搬送件数は1,391件増加したが、令和5年の自損行為の搬送については122件で令和4年を下回っている。</li> <li>・これはあくまでも救急搬送の件数であり、時間が経過したため搬送できる状態ではなかった場合はこの統計には入っていない。あくまでも救急搬送した場合のデータとなっているので留意いただきたい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広報誌に「電話によるグリーンケア」という講演録が掲載されているが、この講演をした吉久氏はご自身の息子さんを自死で亡くされている方。ぜひ読んでいただきたい。</li> <li>・チャリティー映画会「生きる」のチラシについて、黒沢明監督の昔の映画のリバイバルで、よい映画なので見ていただきたい。</li> <li>・チャリティーライブ「つなぐきもち つなぐいのち」は、ハンドサインというバンド団体が企画したもので、初めての試みの手話を取り入れたライブが4月7日に大宮ソニックシティで開催されるので、お知らせする。</li> <li>・朝日新聞デジタル版に掲載されていた記事「AIに心の相談弱さが生む人間の役割 東畑開人」の紹介。東畑氏は臨床心理士で小説も書いている方。ぜひ読んでいただきたい。埼玉いのちの電話は何度電話をかけても繋がらないという状況の中で、</li> </ul>

## 議 事 の 経 過

	<p>このA I の相談は機械が答えるがすぐ繋がるので、繋がりにくいのちの電話よりも頼りになるのでは。資料1-2は私が試みとして行ったA I への相談例なので、参考にさせていただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・雑誌「週刊金曜日」に「子ども・若者に安心できる居場所を」という内容の記事が掲載されていたので、参考に読んでいただきたい。</li> </ul> <p>委員</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・精神科の医学の研究の分野でもA I の研究がされているが、やはりレスポンスが良いことは非常に大切だということと、相談者を責めるようなことを絶対に言わないようA I が学んでいけば、非常に利用される可能性があるのではないかと思う。</li> </ul> <p>委員</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・弁護士としての印象では、経済面で破産の申し立ては今のところまだそれほど多くないが、少しずつ多くなっていきそうな気配がかなりある。</li> <li>・今まで金融機関がお金を貸してくれて、さらに返済計画の変更にも応じてくれた状況が転換され始めている影響が徐々に表れてきており、破産の申し立てが増加するだろうという印象を持っている。</li> <li>・先ほど新聞記事の中で、全体としては自殺者が63人減ったという話があったが、3段落目の原因動機別では、健康問題や家庭問題は減少しているものの経済生活問題が460人増で、全体が減っているにもかかわらず経済生活問題が増加している。やはり生活がかなり厳しくなっていることが心配な要素としてあるので、これからの課題だと思う。</li> </ul> <p>議長</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第二次川越市自殺対策計画の最終案について、修正がある場合には、事務局で対応し、その後に正副議長に一任いただければ、修正されたものを承認したいと思うがよろしいか。</li> </ul> <p>【委員の意見】 異議なし</p> <p>4. 閉会</p>
--	--